

みる つくる がたる

千葉県立美術館報

VOL. 18 NO.2

(通巻67号)

平成3年10月1日発行

編集・発行人 福田 誠

〒260

千葉市中央港1丁目10番1号

☎0472-42-8311 (代表)



宮之原 謙「盛上磁葡萄唐草壺」 昭和10年代

(特別展「近代陶芸のモダニズム」出品)

宮之原謙(明治三一―昭和五二)は、象嵌・彩盛磁など細微で複雑な手法で多彩なモチーフを表現し続けた、近代陶芸史上に際立った作家のひとりです。

この作品名の盛上磁は、彩盛磁と同義語で、生素地に顔料を入れた彩土(いろつち)を盛り上げて文様を作る陶芸技法のひとつです。この盛り上げは、一度で行うとヒビが生じやすく、そのため泥状のものを数回に分け塗り上げるという手間と根気が要求されます。葡萄唐草という伝統的文様をモダンな感覚でとらえ、色調はコバルト系の青を主体として微妙な濃淡が付けられ、正円子(純金を精製した釉)のピンクのぶどうの房が全体を引き締めています。あたたか味のある優雅な作品であり、器のフォルムと色調・文様とが見事に一体化した戦前の秀作です。

宮之原は、鹿児島市に生まれ、昭和二十三年から松戸市に移り制作に つとめました。早くから官展で活躍し、板谷波山の系譜を近代的な鋭い感性で表現しつづけ、昭和三十一年には日本芸術院賞を受賞しました。

(前川公秀)

みる

特別展

近代陶芸のモダニズム

91.10.5(土)～11.10(日)

はじめに

明治四十年、わが国初めての官展として、文部省主催美術展覧会(文展)が開催され、美術界はこれを契機に著しい発達をみましたが、工芸の参加はこのとき除外されました。こうしたこともあって、大

正二年、農展(農商務省图案及応用作品展覧会)が開催されると工芸家の多くはこの展覧会に出品しましたが、産業工芸の進展を意図した同展から、美術工芸をめざす工芸家の関心はしだいにまた官展へと呼びもどされていきました。大正十四年、香取秀真、板谷波山ら当時東京の工芸家の大家が参集して「工芸済々会」が作られ、翌年には高村豊周、豊田勝秋ら金工作家を中心とした「无型」、さらにこの无型に板谷波山らや京都の工芸家が呼応して「日本工芸美術会」が結成されました。一連のこ

うした工芸家たちの活動とその作品は、大正十四年のパリ万国裝飾美術工芸博覧会で、日本の工芸品が受けた酷評を回復するに十分な質を備え、工芸の官展参加の気運は一気に高まっていきました。

●東陶会の結成

こうした経過を経て、昭和二年、わが国の工芸家の宿願であった帝展に第4部(美術工芸)が設立され、また同年、関東近在の陶工が集まり



板谷波山「彩磁延寿水文水指」

東陶会を結成しました。東陶会の設立は、その主要会員で幹事をつとめた大森光彦が、「東京近郊は陶土とか釉となる原料の産地を離れて不便であり、こうしたことから陶芸家の数も少なく、故に相互の親睦を厚くして、各自の流派様式の東西を問わずにその研究進展を深め意義あるものにしてい」(要旨)と後年述懐しているのとおり、系統的にはそれぞれ孤立していた関東の陶芸家相互の言わば親睦的な団体であると同時に研究を目的として組織したことがわかります。

会の顧問には板谷波山、沼田一雅、二代宮川香山の三名が名を連ね、総勢二十五、六名の陶芸家がこれに参加しています。板谷波山は茨城県下館市の出身で、東京美術学校を卒業し石川県工業学校で教壇に立った後、東京田端に開



宮川香山(2代)「色染付椿に群鳥図花瓶」

窯して本格的に陶芸の道に入り、大正時代からその世評は高く、帝展開設時には審査員を務めるなど常に近代日本陶芸界で中心的な役割を果たしています。沼田一雅はフランスセーブル製陶所で陶彫(彫刻的陶芸)を学んで帰国し、その技術をいち早く日本で紹介し、その第一人者として多くの陶芸家に影響を与えた作家です。また宮川香山は、横浜で精密緻密な陶磁器を真葛焼と称して製造して盛んに輸出しました。いずれも関東で数多くの優れた陶芸家を育成

しています。会員には井高昇山、井上良齋、土肥刀泉、大森光彦、小川雄平、横山赤陽、宮之原謙、安原喜明ら二十数名の若手作家が集まり、また後には各務鑑三らのガラス作家の参加も見られます。

●会の活動とその成果

会の具体的な活動は、結成から二年後の昭和四年、日本橋三越を会場に第一回の会員展を開催しています。二十五作家、二一〇点の作品を展示し、以後毎年会員展を続けています。

また昭和十二年と十三年には、東陶会が日本陶芸展を開催し、京都、石川、愛知などからもたくさん作品が出品されました。展覧会の出品作品は地域別に展示されていたため各地の特色などがよく現れ、会員の作品も陶芸伝統地の作家と比較されましたが、東陶会の会員の作品の水準は従来より格段に高まり、陶芸先進地と肩を並べるほどの作家がこの全国陶芸展のなかに数多く認められるまでになりました。

一陶芸団体が伝統の殻を破



沼田一雅「馬」



宮之原 謙「象嵌磁盛上花蝶鉢」



大森光彦「真紅列線文様壺」

り全国公募の日本陶芸展を企画実施したことは、陶芸界に新風を吹き込むとともに、関東の地に確固たる創作活動の基盤を築きあげました。また会員のなかには、創作的な作品の制作を目指すものが増え、伝統にとらわれない自由な作品を発表し続け、その活動は戦後の陶芸界に引き継がれていきました。

また沼田一雅を中心にした陶彫作家たちは、その技術을 ガラス制作技法の一つであるパート・ド・ヴェールの開発研究にも陶彫の技法を応用しています。このように東陶会の活動は、単に陶芸だけでなくさまざまなガラス作品を展覧会で紹介するなど、ある意味で工芸のほかの分野の発展にも寄与し、新時代の陶芸界に創意と澁刺とした気運を呼び、工芸の帝展参加が果たした影響とあいまって、多くの陶芸家を東京周辺に根づかせ、関東の陶芸を従来創作陶芸の中心地であった京都と肩を並べるまでに成長していく先駆けとなりました。

● 展覧会について
この展覧会は、戦前の東陶会に参加した作家を中心に展示します。出品作家は、板谷波山、宮川香山(二代)、沼田一雅ら顧問を務めた三名の作品をはじめ、井高富美、板谷梅樹、井上良斎(三代)、大森光彦、小川雄平、各務鉦三、唐杉濤光、古宇田正雄、小柴外一、竹内蘭山、塗師淡斎、埴好、水野喜作(二代)、安原喜明らがいます。

また同じく戦前の東陶会に参加した千葉県ゆかりの作家として、戦後茂原市で天然ガスによつて茶陶器を制作した田中作太郎(穂山)、轆轤や築窯技術にすぐれ、野田市で制作する辻川涉(福田光山)、成田市に生まれ、千葉県美術会の創設に尽力した土肥刀泉、戦後松戸市で活動し、優れた感性と技術で日本芸術院賞を受賞した宮之原謙、市川市で活動し、茶陶器の指導的立場にあった横山赤陽(朝陽)らがあります。また、戦後富山町で制作し、戦後の東陶会の主要作家であった山本正年の作品も紹介されます。これらの作家のなかには、戦後千葉県に移住してきた陶芸家もいますが、いずれも本県の陶芸界の基礎を築いた陶芸家たちです。本展では、以上の東陶会関係作家に加えて、明治時代から昭和にかけて、関東の地で先駆的な活動を見せた、宮川香山(初代)、竹本隼太、市塚紫山、加藤友太郎らのほかに東陶会と同時代に活躍した富本憲吉、河村靖山、加藤土師萌らの作品をあわせて紹介し、関東での陶芸の流れをその作品によつて概観します。

(金田雅成)

- ★展示作家及び点数
三十一作家一六四點
- ★開館時間
午前九時～午後四時三〇分
(入場は四時まで)
- 月曜日休館(十一月四日は開館し、翌日休館)
- ★観覧料
一般五〇〇円(三〇〇円)、
高・大学生三〇〇円(二〇〇円)、
小・中学生二〇〇円(七〇円) (内は二〇名以上の団体料金)

「第五回現代日本具象彫刻展」
作品公募のお知らせ

すでに前号の館報でお知らせしましたが、「第五回現代日本具象彫刻展」の募集要項が次のとおり決まりました。ふるって御応募ください。

● 応募資格

出身県、経歴、年齢を問いません。

● 応募作品

・平成元年十二月以降に制作された具象的な彫刻作品。
・規格は二m立方以内。重量二トン以内。素材不問。

● 出品料

無料(搬出入の経費は応募者が負担すること)

● 作品搬入日

平成三年十二月十四日(土)～十五日(日) 十時～四時

● 賞・入選

・大賞一点(副賞六百万円)
・優秀賞二点(各四百万円)
・入選 約六〇点

● 審査結果発表

平成四年一月十三日(月)

● 展覧会会期

平成四年二月一日(土)～二月二十三日(日)

● 会場

千葉県立美術館
◎ 応募要項の請求等は、学芸課にお問い合わせください。

第十五回
千葉県移動美術館

展覧会報告

新収蔵作品紹介

今回の移動美術館は、旭市民会館と鴨川市民ギャラリーで開催しますが、展示作品には、鴨川市出身の彫刻家長谷川昂作「富楼那」をはじめ、洋画家林俊衛作「岩和田海岸」、富田通雄作「外房鶴原」等の外房をモチーフにした作品を含めるなど、会場周辺の人々により親しんでいただけるような内容を盛り込んだ構成を図りました。

作品の内訳は、館収蔵作品の中から日本画五点、洋画十五点、版画五点、彫刻四点、工芸八点、書四点のほか、四十三回県展の県展賞等優秀作品を五点加えた計四十六点です。

各会場の開催期間等は次のとおりです。

○旭市民会館
十月三十日(水)～十一月十二日(火) 九時～四時 十一月四日(月)、十一日(月)は休館
○鴨川市民ギャラリー
十一月十五日(金)～二十五日(月) 九時～五時(入館は四時三十分まで) 十八日(月)、二十三日(土)は休館
※いずれも無料

○特別展「英国水彩画展」

十八世紀中頃から約一〇〇年間にわたる二十一人作家一〇六点による展覧は、英国近代水彩画の発展に功績のあった主要作家を再認識する好機会となったばかりでなく、英国の風土性に根ざした独特の色調や構成は、鑑賞者の心を深く魅了しました。特に本展では、作品をじっくり味わう方々が多数見られました。

○企画展「安藤信哉展」
大原町出身の洋画家安藤信哉の作品五十七点を、時代を追って展観しました。その多彩な画風を通じて、作者の優れた造形感覚や技量の豊かさを改めて知ることができました。また、彼に学んだ聾学校卒業生の方々も本展の鑑賞や講演会に多く参加されました。



「英国水彩画展」会場

平成三年四月一日から九月三十日まで収蔵された作品、研究資料を紹介します。

購入

〔日本画〕
石井林響作
「桃源」(絹本着彩一九三三)

〔洋画〕
石井柏亭作
「裏磐梯の秋」(水彩一九五三)

鹿子木孟郎作
「風景」(油彩)

〔裸女と野花〕(油彩)

〔工芸〕
香取秀真作
「銅製おしどり型香合」(銅金)

「銅製猪型水差し」(銅金)

「銅製茶托」(銅金)

「銅製魚文筆置」(銅金)

「銅製蟹型筆置」(銅金)

津田信夫作
「彌勤菩薩」(銅金)

「雷吼一聲」(銅金)

〔版画〕
遠藤健郎作
「市役所物語」(リトグラフ一九九二)

〔書〕
宇津木雀聲作
「凝神著書」(墨一九九二)

〔研究資料〕
香取秀真遺愛品
「雲龍文鉄釜」「銅製風炉」
「銅製筆洗」「銅製銭型お守り」
「是字瓦墨台」「陶製朱肉入れ」「硯」「瓷硯」「携帯用硯」「須恵器高坏」「銅製水滴」「桐製箱」

基金取得

〔洋画〕
アントニオ・フォンタネージ作
「十月、牧場の夕べ」(油彩一九六六)

寄贈

次の作品を寄贈いただきました。ここに厚く御礼申し上げます。

〔日本画〕
道守きのい氏より
若木山作
「冽」(紙本着彩一九六六)

「潤」(紙本着彩一九六六)

「湧水」(紙本着彩一九六六)

「潜」(紙本着彩一九六六)

「山狭の春」(紙本着彩一九六六)

「わだつみ」(紙本着彩一九六六)



フォンタネージ「十月、牧場の夕べ」

中南泰子氏より
石井林響作
「ねずみ」(色紙着彩一九四四)

山口よし氏より
山口豊專作
「千葉の男」(色紙着彩)

「海女」(色紙着彩)

「蟹」(色紙着彩)

「山水図」(色紙着彩)

「村祭」(色紙着彩)

〔洋画〕
大崎恒男氏より
大崎善生作
「溪流」(水彩一九八八)

「初秋水郷」(水彩一九八九)

〔研究資料〕
中南泰子氏より
石井林響作
「松茸」(版画一九二九)

情報資料室だより

◆新収蔵図書のお知らせ

— 寄贈図書の御紹介 —

本県松戸市に在住し、近代陶芸界の代表的作家として活躍され、日本芸術院賞受賞、また県美術会常任理事としても尽力された宮之原謙氏夫人の初子さんから、左記の資料をはじめとする図書・図録・雑誌など計一一冊の資料を寄贈いただきました。厚く御礼申し上げます。

◆作品集

「日本陶芸巨匠大観」

「彩華」(第1〜3期)

「美術工芸大観」(全3巻)

「宋元寫生画撰」

「古代外邦陶器圖譜」

「古染付皿百選 前編」

「外邦古陶器集」

「古赤繪皿百選 前編」

「世界の日本(次代を担う作家たち)」

◆工芸理論書類

「瀬戸物と美濃瀬戸」

「日本陶器全書」(全4巻)

「支那陶器全書」(全4巻)

◆事典類

「本朝画家人名辞書(上・下)」

「萬国圖案大辞典」(全20巻)

この他、貴重な資料が多数あります。情報資料室にて御覧いただけます。

— 購入図書の御紹介 —

今年度新たに、左記の図書を購入しました。この他にもありますので、どうぞ御利用ください。

◆作品集

「ダリ全集」(全3巻)

「山本芳翠の世界」

「池田満寿夫全版画」

「日本の漆芸」(全6巻)

「バルテュス画集」

「モダンマスターズシリーズ」

・デヴィッド・スミス

・マルク・シャガール

・ロイ・リキテンスタイン

・コンスタンチン・ブランクーシ

◆材料・技法書類

「絵の具の科学」

「蘇る絵画」

◆美術理論書類

「パウハウス叢書」

「池袋モンパルナス」

「ボタニカル・アート」

◆美術史

「岩波 日本美術の流れ」

「ケンブリッジ西洋美術の流れ」

「美術の歴史」(全2巻)

「明治日本画史料」

◆雑誌(古書・復刻版)

「近代美術雑誌叢書」

・臥遊席珍

・東洋絵画叢誌(全3巻)

・美術評論(全4巻)

・龍池会報告(全4巻)

「画 論」(全27冊揃)

— 特別展「近代陶芸のモダニズム」関連図書の御案内 —

情報資料室では、特別展「近代陶芸のモダニズム」に関連して、近代の陶芸に関する図書を取り揃えております。どうぞ御利用ください。その一部を次に御紹介します。

◆作品集

「八木一夫作品集」

「三輪龍作の作品集」

「板谷波山」

「河合卯之助の世界」

「陶芸 石黒宗鷹作品集」

「備前 浦上善次」

「陶芸の絵紋様」下図と絵付

(近代編・現代編)

「加守田章二作品集」

「清水六兵衛作品集」

「宮之原謙陶磁作品集」

「近代日本の色絵磁器」

「日本の赤絵」

「日本の三彩と緑釉」

「現代日本の陶芸」(全16巻)

「日本のやきもの」(全10巻)

「陶磁大系」(全18巻)

「陶器講座」(全13巻)

◆材料・技法書類

「現代陶磁の彩色技法」

「やきもの制作の実際」

「陶芸の伝統技法」

「陶芸の土と窯焼き」

「陶芸の釉薬」

◆評論・工芸理論書類

「刻々の炎」

「やきもの、この現代」

「富本憲吉著作集」

「日本の名隨筆『陶』」

「関東の陶磁」

◆事典類

「茶道美術鑑賞辞典」

「陶磁用語辞典」

「陶器大辞典」(全6巻)

「最新現代陶芸作家事典」

「原色陶器大辞典」

「やきもの事典」

「陶磁器染付文様事典」

「京焼きの文様」

(デザイン集成I・II)

◆陶芸史

「薩摩焼年表」

「京都窯芸史」

「京焼百年の歩み」

◆美術講演会◆

本年度予定の五回の美術講演会のうち、これまでに特別展「英国水彩画展」と企画展「安藤信哉展」の開催期間中に三回実施しました。

いずれもスライドを交え、作家、作品、技法等について時代背景や風土性、あるいは自己の体験などを加味して話が、美術への興味や親しみを誘う好機会となりました。

第四回美術講演会は、十月五日(土)から開催する特別展「近代陶芸のモダニズム」に伴い実施します。多くの方々が参加され、近代陶芸の歩みや特質などについて理解を深めていただければ幸いです。

日時 十月十二日(土)二時
演題 「陶芸のモダニズム」
新しい陶芸のめざえ
講師 樋田豊次郎氏(東京国立近代美術館主任研究官)

※会場は本館講堂で参加者数は二〇〇人を対象としています。聴講料は無料で当日先着順です。

報 告

5月より開始した美術館主催の実技講座のうち、これまで終了した内容を報告します。

■版画講座

受講生が持ち寄った下絵をもとに、観察や構想を重ね銅版画の基礎的技法の習得に励みました。(12日間)参加者20人、講師・増田陽一氏。

■日本画講座

花や風景を題材に観察や構想を重ね、日本画の基礎的技法の習得や多彩な表現の方法について学習しました。(12日間)参加者20人、講師・斉藤淳氏。

■洋画講座1

花、着衣人物、風景を題材に取り組み、油彩や水彩による表現技法を習得しました。(10日間)参加者30人、講師・熊谷文利氏。

■陶芸講座

成形、素焼、施釉、本焼成という陶芸の各工程の意味や方法について講義を受けました。その後、信楽土を素材に花器や食器等を制作しました。(9日間)参加者30人、講師・明石昇氏。

■洋画講座2

セミナードによるバレリー

実技講座の報告・案内

ナ及びヌードの油彩表現に取り組みました。(10日間)参加者30人、講師・松沢茂雄氏。

■彫刻講座

直径20×30cm、高さ40cmの丸太を素材に、人物の頭像を制作する過程を通して、木彫の基礎的技法の習得に励みました。(12日間)参加者13人、講師・渋谷三朗氏。

御多忙な中から、本講座のために時間を割いていただいた講師の諸先生方に厚くお礼申し上げますと共に、受講生の皆さんの協力で事故なく終了できましたことを感謝致します。

案内

引き続き、年度内に次の三講座が実施されますので御案内致します。

■書芸講座

経験者を対象に、漢字の実習を通して、書の基礎的技法を習得させます。会期12月4・5・6日(8日間)定員25人。申込締切、11月20日。講師・中村象閣氏。

■洋画講座3(水彩)

経験者を対象に、水彩画の基礎的技法やより幅広い表現力や創作力を習得させます。会期、1月22日・2月8日(10日間)定員30人。申込締切、1月8日。講師・戸田健夫氏。

■金工講座

経験者を対象に、銅板を素材にレリーフの制作を通して金工の基礎的技法を習得させます。会期、1月28日・2月13日(12日間)定員15人。申込締切、1月14日。講師・小林正利氏。

(申込方法)

往復はがきに、希望講座名、氏名、住所、電話番号を明記の上、美術館普及課まで。いずれの講座も定員を越えた場合は抽選となります。



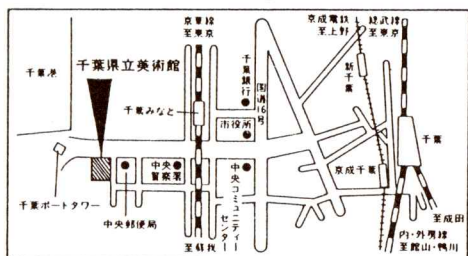
彫 刻 講 座

日 誌 抄

7・29	7・27	7・21	7・17	7・10	7・6	7・3	6・26	6・25	6・22	6・21	6・19	6・18	6・15	6・5
37人	常設収蔵作品展第II期(19・8)	企画展「安藤信哉展」(19・8)	企業展「安藤信哉展」(19・8)	移動美術館打合せ会	移動美術館打合せ会	移動美術館打合せ会	移動美術館打合せ会	移動美術館打合せ会	移動美術館打合せ会	移動美術館打合せ会	移動美術館打合せ会	移動美術館打合せ会	移動美術館打合せ会	移動美術館打合せ会
博物館実習(18・7)	博物館実習(18・7)	博物館実習(18・7)	博物館実習(18・7)	博物館実習(18・7)	博物館実習(18・7)	博物館実習(18・7)	博物館実習(18・7)	博物館実習(18・7)	博物館実習(18・7)	博物館実習(18・7)	博物館実習(18・7)	博物館実習(18・7)	博物館実習(18・7)	博物館実習(18・7)

＜交通案内＞

- J R 総武線「千葉駅」より「千葉ポートタワー」行 バス15分「美術館・郵便局前」下車徒歩1分
- J R 京葉線「千葉みなと」駅下車徒歩8分



職員異動

左記の職員が転出しました。
7月31日付
中村博史(研究員)千葉市厚生課副主査)
9月1日付
篠原恒雄(主任運転手)県教育庁総務企画課主任運転手)

8・1 茂原市教育委員会研修生受入れ(10・31 1人)

8・2 彫刻講座(18・25 講師 渋谷三朗氏)

8・10 第3回美術講演会(講師 工藤和男氏)

8・20 第2回調査研究員会